

## 市長の退職金見直しに

昨年の6月議会で、私は「市長の退職金は見直すべき」と質問し、引き下げを求めましたが、さる1月13日の「鈴鹿市特別職報酬等審議会」で、市長など3役の退職金を10%引き下げることが適当であるとの決定がありました。

私の質問に対する答弁で川岸市長は、「議員から提案される前から見直しを考えていた」と述べましたが、いくら下げるとは具体的に言いませんでした。当時、鳥羽市の市長が「10%削減」とすると報道されていたので、これが相場になるのかと思っていたら、そのとおりでした。しかし、その後つい最近、名古屋市長が選挙前ということもあるのか「3割カット」と表明し、相場がまた下がりました。

下げるといっても、市長の場合2116万円から1904万円になりますが、依然として高いことは変わりません。一般職なら一生働いて受け取るような金額をわずか4年間でもらえるという仕組みが、問題だと思います。

---

### 市長の資産公開の方法も、見直しを表明

12月議会では、私は市長の資産公開制度についても見直しを求めました。いまの公開の仕方は、1年目は土地家屋から預金、借金まで全項目を公表しますが、2年目からは「増えた分」だけを公表するのです。

そうすると、例えば「借金」が減ったり無くなったことは、公表の対象外になってしまうのです。どこからか収入があって、それで借金がなくなるのに、そんな金の動きは分からないという、欠陥品の制度になっているのです。

政治家がその在職中に、財産を増やしたのか減らしたのか、市民が監視できることが資産公開の目的ですから、肝心のことが分からないような制度は見直すべきだ、具体的には毎年、全項目の増減を公表すればよいではないか、と私は求めました。川岸市長はこのような制度の欠陥があることを認め、見直すことを約束しました。

# 伊船工業団地への企業立地が完了

なかなか企業誘致が進まなかった伊船工業団地が、この1月までに4企業が進出することが決まり、これで約3万坪（10ヘクタール）の用地すべてが埋まりました。進出企業は、次の4社です。

株式会社伸栄サービス	(3335坪)	一般貨物自動車運送業
		16年9月より稼動
坂本工業株式会社	(9333坪)	自動車用部品製造業
		18年2月操業開始予定
株式会社ハネダユニテック	(3724坪)	事務機器・自動車用部品製造業
		17年11月操業開始予定
協同組合三重オートリサイクルセンター	(12553坪)	自動車リサイクル事業
		17年11月操業開始予定

## 用地代を大幅引き下げなど、優遇策による進出

用地造成完了以来4年間、ひとつも企業の応募がなかったのに、この1年で用地が全て埋まった背景には、用地売却額を造成原価から実勢価格にしたこと（坪8万7千円→5万円）、「事業用定期借地」として貸し出すこと、市の支援策も強化したこと、があります。今回の進出企業のほとんどは「借地」で操業を始め、軌道に乗ってきた後に用地を買い取るという条件です。この土地の簿価は24億円余、実勢価格で売却すれば15億円ほどで、市としては、この工業団地は売れても大赤字ということです。

2代前の市長が手がけた事業ですが、見通しを持たずに進めた結果は高いものにつきました。しかし、荒地にしておくよりは、企業がやってきて生産活動を行なう方が、いつかは元が取れることになるので、今回の企業進出は前向きな解決になります。

---

## 新庁舎建設現場の市民向け見学会を

昨年暮れに、市民からのメールで「新庁舎の建設に関心があるが、市民にも見学や説明を聞く機会を作ってほしい」との意見をいただきました。さっそく市長や担当者に伝え、行なう方向で検討をしてもらっています。

# 新年度から国民健康保険税引き下げ

「すずか民報」でお知らせしたように、17年度から国保税が平均5%ほど引き下げになります。とくに低所得の世帯の引き下げ率が大きくなり、所得が多くなるとあまり下がりませんが、ほとんどの世帯が今年よりは下がることになります。

また、介護分の最高限度額が1万円引き上げて8万円になるので、医療分53万円とあわせた最高額は60万円から61万円になります。

**注意・「2割軽減」の人は、手続きが必要になります**

今回の引き下げは、所得割を9%から8.2%に下げることに加えて、均等割・平等割に「7割・5割・2割軽減」を適用することで、所得の低い世帯はさらに下がることになります。ただし、7割と5割については自動的に軽減されますが、2割軽減だけは該当世帯からの手続きが必要になります。

【例】 所得138万円（給与213万円）、3人世帯の場合  
税額は 16年度 212,500円 から 17年度 182,100円 になりますが、2割軽減の手続きをしないと 206,100円 となり、24,000円 も損になります。

せっかく制度があっても、手続きミスで引き下げが出来ないということがないように、事務当局に親切な案内をするよう申し入れています。皆さんも気をつけてください。詳しいことは、7月の納付書発送のときに説明があります。

---

## 開発で歴史ある「マンボ」がなくなってしまう

名阪鈴鹿インターの東、富士ゼロックスの向かい側で、20ヘクタールの大きな民間開発がすすんでいます。「F1マート」やパチンコ店などができる予定ですが、この区域の真ん中を私の地元・伊船新田のマンボが通っています。

マンボは、地下水を集めて農業用水にする、長い横井戸のようなもので、北勢地方に独特の珍しいものです。すでに上の土地は買収されてしまい、地下のマンボの水利権も開発業者との間で、補償と引き換えになくなってしまい、埋められてしまうことになります。何とも残念なことです。

ずいそう

## 「北の零年」と吉永小百合

正月明けの話題の映画ナンバーワンは、吉永小百合主演の「北の零年」である。明治維新直後の新政府の命により、淡路島から北海道静内へ開拓に移住した武士とその家族たちの、きびしい開拓地での苦闘とその後の運命が、実話とフィクションを交えて描かれている。

主演の吉永小百合は、前半は開拓の先頭に立つ武士の夫に従う辛抱強い妻、後半は夫の失踪後、外国人の助けによって牧場を経営する自立した女性という対照的な役柄を演じている。政府高官となって軍馬の徴発に現れた元夫との対決シーンは、この映画のクライマックスである。

明治維新という国の大転換のなかで、自分を見失わずに生きていく芯の強さをもった主人公。吉永は「今は日本に住む私達がどういう方向に進んでいくのか、自分で考えなくてはいけない大事な時期だと思うんです。今の私たちにできること、やらなくてはいけないことは何なのか？そういうことを重ね合わせて観ていただけたら嬉しいですね」と、語っている。

### 戦後の若者の心をとらえた、永遠の青春スター

私より上の年代の者にとっては、吉永小百合は「あこがれのマドンナ」であった。可憐で優しく、聡明で芯の強い、戦後民主主義の象徴としての理想的な日本女性、「サユリスト」という言葉ができるほど多くの男性ファンがいて、私もその一人であった。

映画に登場する前から、テレビの「まぼろし探偵」などに子役として出ていたことを覚えている。名作「キューポラのある街」や、浜田光夫との青春映画、「男はつらいよ」「青春の門」など、70年代までの映画で見る小百合さんは、ほんとに良かった。年上の実業家と結婚すると聞いたときは、「えー！あのみんなの恋人が」と、がっかりしたものであった。

その後は、いろんな役柄で登場してきたが、どうも私の頭に刷り込まれた小百合イメージとちがうものは、好きになれなかった。今回の「北の零年」の役は、逆境、貧困に耐えながらも、希望を失わずにがんばる、自立した女性という、往年の小百合ファンには「久しぶりに再会したマドンナ」という感じで、大いに満足している。